

アカガシラカラスバトの現状について (平成 28 年度アカガシラカラスバト保護増殖検討会での議論の概要)

○推定個体数の評価

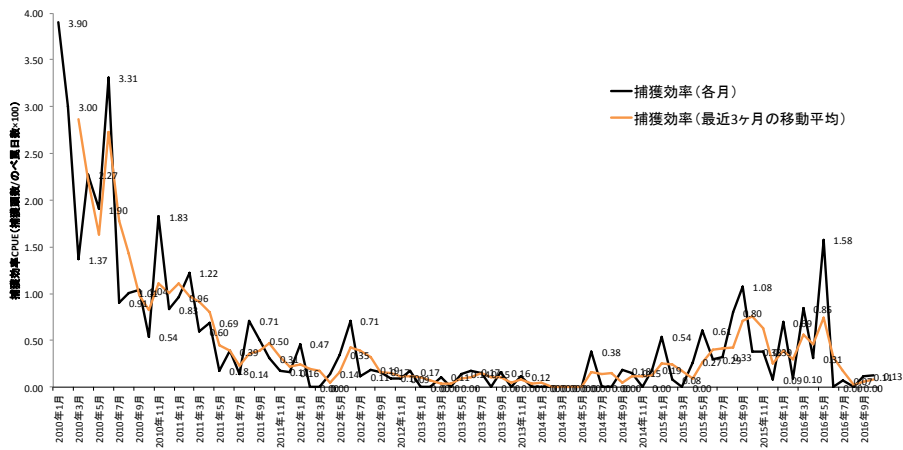
- ・アカガシラカラスバトの個体数は、目撃情報や標識調査などから推定すると、ここ数年は以前の急激な増加傾向ではなく、安定した状態にあると考えられる。
- ・ただし、個体数が増加してきたとはいえ、総数がまだ数百程度だとすると、長期的には安定した状態とはいえず、本種が絶滅危惧を脱する状況ではなく、今後も保全対策が必要。
- ・近年のアカガシラカラスバトの個体数増加が止まった理由を考える必要がある。
- ・環境収容力がいっぱいになり食物の供給の面からこれ以上の増加が難しくなったのか、ネコの捕食圧が依然としてまだ強いのか、これまでネコの捕食圧が強く表面化していなかったネズミの捕食圧等ほかの要因によるものか、いくつか考えられる。

ネコ対策の現状トピック

(小笠原ネコに関する連絡会議での議論内容の概要)

○父島のネコ対策について

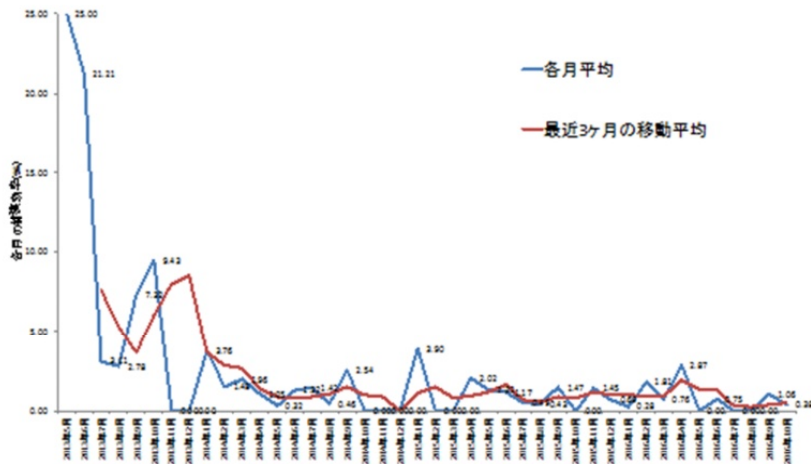
2013年度に推定10-20頭程度の低密度状態まで低減することができた。しかしながら、2014年度以降リバウンド傾向が見られている（残存ノネコから子ネコが供給していることが主原因であると思われる）。根絶に向けて、難捕獲ネコの捕獲が課題である。



父島におけるノネコ捕獲効率

○母島のネコ対策について

今年度は南部を中心に実施しており、南崎ではカツオドリの繁殖が見られるなど一定の成果があがっている。一方、全島的には2010年から実施されている試験的な捕獲により、既に父島の累計捕獲頭数と同水準に達しているが、依然として捕獲当初から低密度化している傾向が見られない。



母島における捕獲効率

環境省事業捕獲ラインにおける捕獲効率



平成 28 年 5 月 母島南崎に再整備したノネコ侵入防止柵

○受入れ体制の強化

これまで捕獲したネコは、全て東京都獣医師会の協力により、内地搬送により、引受け、馴化していただいている。昨年度、一時受け入れ体制に滞りが見られたことから、ネコ連、東京都獣医師会で連携して、ネコ譲渡の促進や、対策の理解促進を目的とした HP を作成した。

○今後のポイント

今後のネコ対策については、父島と母島の両島に同時に高い捕獲圧を掛けることが難しい中で、未だに達成できていない父島の根絶、低密度化していない母島での実績、ネコの受け入れ体制の課題等の実状を踏まえた対策方針の検討が必要である。